

はい、会場の皆さんも LINE の皆さんも、この時を感謝します。出会いを感謝します。私たちがいる距離も超えて一緒に進めて行きましょう。

さあ、では、賛美と霊の歌。心を整えていきましょう。

賛美:

私達は主の中におり、イエスの中におり、主と共に十字架にかけられました。そして、主と共に甦りました。その主は今、私達と共にいます。

今日覚めるものよ。我が内にありて、喜び楽しみなさい。古きは去って新たなる世界。衣を脱いだ新たなる世界。アルファであり、オメガである。主がそこにおられる。

私たちは三人称で語られる神様と向き合っているのではない。二人称です。だから、ここに私と共におられる主に、「あなた」と呼びかける。そのリアリティを意識しましょう。遠くにいる神様が私を見てくださっているのではないんです。私とともに我が内にいて、私達は、『私とあなた』で語り合うわけです。そこに招かれていますから。アーメン！主をほめたたえます。18:20.70

前半

さあ、今日で、パート 1、パート 2 を終わります。だけど、このパート 1、パート 2 をしっかり自分のものにして、ここに踏み留まって、立って、パート 3 に進みたいと思っています。ですから、今日の中心は、パート 1 とパート 2 の中にあることを、じっくり反芻したい。私たちの内に飲み込んだ神のことばを、もう一度ゆっくり牛が反芻するように、皆さんと一緒に喉まで出して、噛み砕いて味わって、そして進みたいなと思っています。

はいですからどうぞ、この場に面と向かっている方々は勿論ですけど、ラインで 1 人で聞いていらっしゃる方もどうぞ、地域的な場所を主は乗り越えていらっしゃいますから、側に一緒に座っているかのように、進めていきたいと思います。また録音で聞かれる方も、神様は地理的にも時間的にも超えていらっしゃいますから、永遠の今という我々の一瞬一瞬を大切に、解き放っていきましょう。自信を持って。21:23.30

はい、それでは、パート 1 は【主との 一致】、パート 2 が【もう 一人の私との出会い】というタイトルを本では付けています。で、初めに言いましたように、この『主との一致の距離』というのが、三人称の神様ではない。なぜそう言えるかというと、神様が私たちをそう見て思っているからです。それを我々は聖書の神様の語りかけから、それをこれまで学んで消化してきました。22:23.78

初めに、創世紀の 1 章 2 章 3 章のあたりでやりましたよね。そのところで大きなポイントは、神様とアダムとの距離間、その距離というのは、エデンの園の距離がどれだけ広いかというようなことを書いてはいませんから。そんな距離は問題じゃないですよ。私たちに必要なものは、主が私たちを深い眼差しで見て、私たちに語りかける『存在の距離』です。だから、『主との関係性』を聖書は大事にしているという、その見方です。

理科的な教科書みたいな感じで、天地創造を読んできたという印象があるかもしれません。けど、じっくり読めばそんなものじゃないし、それを目当てにしているのではないんです。

[初めに、神が天と地を造った。地は形が無く虚しかった。神が『光あれ』と言われた。] そういうテンポを聖書って大事にしてるんですよ。

ヨハネによる福音書の1章の最初もそうでしょ。[初めにことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは、神であった。]あのね、ヨハネの福音書の1章の1節の原典をギリシャ語で読んだらもっと感動するよ。それは、[初めにことばがあった。ことばは神とともにあった。]と、我々読んでもうでしょ。ところがね、[神とともに]ということばが、原語のギリシャ語では、[ともに]というよりも、[神に向かって]という印象を持つ言葉が使われているんです。[初めにことばがあった。ことばは、神に向かってあった。]これ、どうですか？いいじゃないですか。でもそのままの翻訳にしたらちょっと変ですよ。変だから、そういう違和感を、何か言葉のすんなり感を出すために[神とともにあった。]と、そうしています。でも、原語では、[初めにことばがあった。ことばは、神に向かってあった]なんです。26:18.19

だから私は思うんです。これから長い教会時代を我々は過ごしてきて今、過渡期です。なんの過渡期かって？教会の恵みの時代から、神の国の時代にいよいよ完成されていく過渡期です。そういう言い方をしていますよ。

私はね、もうすぐ患難がどうの、あれがどうの、これがどうの、あの国がどうのと言っていないよ。もうすぐ大変な時代が来るからねというその過渡期をいっていないよ。そこはまた、本当にこのパート1とパート2を分かって、呑み込んで消化してもらえたら、分かってくると思います。27:20.50

だから、私は、これからの今の時代のことを思って、こういう風に、言いたいです。

[初めに、神が天と地を造られた。地は形なく虚しかった。]という、その語り方と新約の時代、大いなる時代の過渡期に、ヨハネが[初めに言葉があった。言葉は神に向かっていた。]というそれをキングダムセミナー風に、この過渡に言い換えたらどうなるかと、私は思ったんです。それはね、『初めに、関係があった。』笑っちゃう？

『初めに、関係があった。』

『関係は神の国であった。』

いい？グッドリアクションしてくれる？会場からから、グッドリアクションも出ました。

『初めに関係があった。関係は神の国であった』私達は、その中にいた。29:24.77

神様は、あなたに対して『あなた』と呼びかける。『あなた』と呼びかけて、あなたに眼差しを向けている。そして、そこには、何があって欲しいんですか？あなたからの『応答』があって欲しいんです。『あなたよ。』と神様が呼びかけても「いや〜、神様と見つめ合うのは恥ずかしいから」と言って、チラチラと横っちょを向いたらだめです

よ。恥ずかしくない。ストーンと、自分一人で主の前に顔を上げたらいいんです。それがね、天地が造られる最初なんだから。30・40.97

神様が創世紀の初めに語りかけたその[初めに、神が天と地を創造した]という語りかけをあなたが、あなたの耳で、あなたの顔で、全身でそれを聞き取っている。その神様の語りかけを聞いているのは、あなたなんです。他のみんなが聴いていて、そのみんなが聴いている姿をあなたが見てるんじゃないんです。誰もいない。主の前にあなた一人が立って、あなたの耳に、あなたの心に、神様が語りかけをしているんです。そのように聖書を読んですか。31:52.03

私たちには、日常生活であるじゃないですか。仕事もあるしやる事がいっぱいあるし、そういうことをやっていても、神様はずっと、こちらを見ている。そして「あなたよ。」と呼びかけている。これが第一ですよ。

私たちがどんなに作業で忙しくても。あれもしなきゃいけない、これもしなきゃいけないんだけど、それをする自分の根源、根底には、主の眼差しと語りかけがあるんです。33:09.31

神様は霊ですから、勿論、アダムにいのちの息を吹き込まれたんです。そして応答できるようになったんです。だから、その聖霊も、神の霊も三人称で捉えるものではないんです。

ヨハネの 14、15、16、17 章を前、読みましたけれど、イエス様に対してもそうでしょ。だから、私達は絶対に見誤ってはいけないのは、父と御子イエスと聖霊との 三者の深い、深い関係性なんです。その 三者の関係性の中に、私たちは招かれたんです。包まれているんです。34:26.93

それなのに、我々の感覚は、どっかよそよそしくて、距離があって、「あ、祈らなくちゃ」と。・・・祈るのはいいことじゃないですか。でもね、その感覚の中に距離を持つものではないんですよ。そこが、相互内在、このパート 1 の『相互内在』とパート 2 の『もう 1 人の私』のエッセンスなんです。35:16.33

聖霊との歩みに招かれているというこの『聖霊とともに歩む』ということ、また三人称の聖霊として、「聖霊様、聖霊様」と距離感を持って捉えたら、同じことですから。

神様はアダムを[『我々に似るように。そしてすべてを支配し治められるように造ろう。』と言って、彼のうちにいのちの息を吹き込まれた。]1 章と 2 章で。そして、天地創造はまだ終わってはいません。天地をあなたと私と共に完成することを目指して向かっています。それは『神の国の完成だ』ということになります。36:51.82

途中でアダムとエヴァのしくじりがあったけれど、それを神様はきっちり回復させていくさるわけ。そして、回復して、全ての払うものを払い、すべての補うものを補って、私たちが御子イエスの中に招いてくださった。そして、その次に、私たちの内に聖霊を与えてくださった。これがヨハネの福音書の非常に重要なメッセージです。

私達の内に内在する聖霊を、認めることは大切ですけど、私の中に『もう一人物』いるかのようにいちいち「聖霊がなんというかな？」とかいうのはね、・・・この前言いましたように聖霊は『助け主』です。どのように私達を助けるか、神様がともに御国を治めるものとして、我々を建て上げる、築き上げるために、聖霊は我々を助けてくださるのですからね。38:50.04

ここでちょっと聖書を開いてみましょう。『聖霊』についての箇所ですけど、コリントの第一の手紙の2章。ここをずっと長く読みたいのですけど、そういうわけにもいきません。どうぞ、お一人で今日私が話すことをお聞きになってから、後で読んで頂けたらと思います。40:03.71

それでは、1コリント2章の4節からちょっと見て下さい。

[そして、私のことばと私の宣教とは、説得力のある知恵のことばによって行われたものではなく、御霊と御力の現れでした。]・・・聖霊の現れであった。5節[それは、あなた方の持つ信仰が人間の知恵に支えられず、神の力に支えられるためでした。]6節[しかし、私たちは成人の間で知恵を語ります。この知恵は、この世の知恵でもなく、この世の過ぎ去っていく支配者たちの知恵でもありません。]7節[私たちの語るのは、隠された奥義としての神の知恵であって、それは神が私たちの栄光のために、世界の始まる前からあらかじめ、定められたものです。]8節[この知恵を、この世の支配者たちは、だれ1人として悟りませんでした。もし悟っていたら、栄光の主を十字架につけはしなかったでしょう。]9節[まさしく、聖書に書いてあるとおりです。『目が見たことのないもの、耳が聞いたことのないもの、そして、人の心に思い浮かんだことのないもの。神を愛する者のために、神の備えてくださったものは、みなそうである。』]10節[神はこれを、御霊によって私たちに啓示されたのです。御霊は、すべてのことを探り、神の深みにまで及ばれるからです。]11節[いったい、人の心のことは、その人のうちにある霊のほかに、だれが知っているでしょう。同じように、神のみこころのことは、神の御霊のほかにだれも知りません。]12節[ところで、私たちは、この世の霊を受けたのではなく、神の御霊を受けました。それは、恵みによって、神から私たちに賜ったものを、私たちが知るためです。]13節[この賜物について話すには、人の知恵に教えられたことばを用いず、御霊に教えられたことばを用います。その御霊のことばを持って御霊のことを解くのです。]14[生まれながらの人間は、神の御霊に属することを受け入れません。それは彼には愚かなことだからです。また、それを悟ることができません。なぜなら、御霊のことは御霊によってわかまえるものだからです。]15節[御霊を受けている人は、すべてのことをわかまえますが、自分はだれによってもわかまえられません。]16節[いったい、『だれが主のみこころを知り、主を導くことがきたか。』ところが、私たちにキリストの心があるのです。]43:54.00

非常に意味深いことを言ってるようだけど、・・・「あのナザレのイエスが、主がみこころとされていた救い主なんです。それが分かるのは、聖霊によるんですよ。」と、聖書でいっていますよとよく我々は聞いてきました。けれど、パウロが言うのはね、主イエスが救い主かどうか、自分を贖ったかどうかというようなことはもちろん、必要です。けれど、パウロがここで含みをもって言っているのは、そういう神の国の中にあるいわゆる基本的なことを、このようにくどく言っているわけではありません。45:08.98

あなたがたの内に我々が受けた御霊は、もっと奥深い神の奥義を、神の啓示を我々に悟らせようようと、教えようとしておられるんだよと。その深さ、広さ、高さを想定しています。

だから、3章の1節をみて下さい。[さて、兄弟たちよ。私はあなたがたに向かって、御霊に属する人に対するように話すことができないで、肉に属する人、キリストにある幼子に対するように話しました。] 2節[私はあなたがたには、乳を与えて、堅い食物を与えませんでした。あなたがたには、まだ無理だったからです。実は、今でもまだ無理なのです。]云々と、これずーっと続くんですよ。46:28.09

[キリストにある幼子]と書いてある。幼子でも赤ちゃんでも、キリスト（の中）に在るんですから、いいじゃないですか。でも、パウロは「それでいいですよ」とは言っていない。「キリストにある幼子として、子供として生きているのは大いに結構。けど、まだまだ奥義があって、我々はもっと成長していくんだよ。もっと変わっていくんだよ。もっともっと、我々は変えられていくんだよ。」と言ってるわけ。「その変わっていくのを助けてくれるのは、我々のところにきてくださった聖霊なんだよ。」と言ってるわけ。47:41.22

『我々が聖霊を認める』ということは、我々がもっと成長して、変わっていくのを助けるという目的と使命を持って、一番自分の近くに、自分の内に来てくださったお方。それが聖霊なんだということを知ること。歓迎すること。大事にすることでしょう。48:17.39

そうすると、我々は、なんて力強い、心強い恵を得ているんだろうかと。どうして、環境的に一人ぼっちだからと言って、寂しいことがありますでしょうか。どうして、何か行き詰まった境遇だからと言って、本当に自分を苛む必要がありましょうか？その中をあらゆる境遇や環境やストーリーを通して、我々はどこでも、『聖霊の助け』によって築き上げられていくんだということです。49:24.80

これが私がいろんな先輩から教えられて、また自分でも実践してやってきて、つくづく感じることなんですが、皆さんもそうではありませんか？①聖霊が我々とともにいてくれるから、いつも心の中で御霊と対話しようとして聖霊を意識している人がいます。あるいはまた別に、②内に共にいらっしゃる聖霊は、もう共にいらっしゃるのは当たり前で、自分の血液が流れているのを、自分が意識して生きる人がいないように、もう当たり前。自分が呼吸してるのも当たり前。そのようにもう『主と共にある』ということが、完全に自分のものとして意識にも上らず無意識のうちに、それがなっている人がいます。それで自分の中で、何も恐れることなく、躓くことなく、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制それらが自分の中に共にあって・・・という。だから、まるで聖霊というお方が、その人の意識の中では、完全に自分としての中に馴染み込んでいるというタイプです。

ところがそうじゃなくて、さっき始めに言った、いつも事あるごとに、聖霊を意識しようと、その意識に駆り立てられていく人がいます。だから、聖霊意識に駆り立てられていく人は、「聖霊様がこう言われました。証します。」
「私の内の御霊がこう言われたんです。」という表現をします。ところが、さっき言った後者の人は、自分の完全に

一つの意識の中で、それを馴染み取って意識しないで、スッとその中にいる。その人は、証して「聖霊、聖霊」とは言いません。でも、その人の内側に御霊は、躍動しているのをその人は認めているでしょう。あなたはどちらですか？その中間ですか？本当に色々いるんですよ。53：07.46

大切なのは、ここに、私たちにはキリストの御霊があるのです。御霊を持っている人は、その御霊とともにすべてのことを見分けます。見極めます。出来ます。でも、自分自身を見極めるお方は主ですから、私たちは深く自信を持って、私たちにはキリストの心があるんです。その表現の仕方は、現れは、その人の個性が生き方によっていろいろです。みんな一色じゃない。聖霊、聖霊と言わなくとも、『黙って御霊と歩く』という現れの人がいる。54:42.98

なんでそうなの？聖霊が我々の助け主だからです。あなたという心の在り方、表現の仕方を聖霊は、強引にあなたを強いて、一つの方法に向けません。あなたという個人の主体が、あなたという自分の意識が、内側から御霊が醸し出してくる思いをともに考えて受け止めて、それを表現する。

55:34.62

だから、その表現の仕方はあなた次第ですよ。前、何回も言っていますように、神様のパートナーである『あなたという存在』を神様は大切にされていて、『あなたの意思』を大切にしています。だから、まず、あなた自身の主人は、あなたでなければならない。56：15.16

あなた自身の主人は、あなたでなければならない。そのあなたという主人が、御霊を喜び歓迎し、聖霊を自分の内において歓迎して、じっくり御霊と共に考えるんです。御霊は、あなたが知らないイエス様、父なる神様が持っておられた深い奥義を、霊の知識を持っておられます。御霊は、その霊の奥義、知識を持ちながら、あなたと考えてくださるんです。57]07.95

そうすると、あなた自身の中で、これまで考えにも及ばなかったこと、これまで考えたことがないこと、思いついてもいなかったこと、あるいはこれまで嫌って押し退けていたことをかもしれない。でも、それを考えるようになるんです。それを考えて、「うーん？」と、自分の中で思いめぐらし、それをあなたに考えさせてくれるんです。

57:47.25

そしたら、初めに言った前者のタイプの人たちは、「聖霊が今私にこう語って下さいました。」と。それで私は、「そうですか、ハレルヤ！」といます。後者の方は、「私ね、こういう風に思うようになりました。」と、静かに言います。「何、なに？どういうことですか？」「あなたの思いを話して下さいませ。」と。前者だけが聖霊が言ったんですか？そうじゃないと思います。そういう深い深みがあります。58:45.34

それはね、皆さんが今日までどういう教会やクリスチャングループを通ってこられたかもわかりません。通って来られたその教会グループのカラーや文化にもよるよね。「ハレルヤ！今御霊がこう言われました！」というグループがあるし、いや、もうそんなことは全く言わないで。静かに冷静にクールに。その人の意見として、その人の思いとして、それを語り合うところがあります。59:36.34

ですから、聖霊の働きということで、この前、御霊が語らせてくださる言葉である『異言』のことも言いました。・・・私がセミナーでちょくちょく『異言』のことを言ったりしていますから、いろんな応答をもらっています。「なんですか？それは、・・・『異言』なんて今まで聞いたこともない」という人もいらっしゃったけど、もう異言三昧のグループの中にいたという人もいたし、もう反応は、いろいろです。1:00:35.92

その結果の私の感想ですけど、「異言で語れるようになって、語りっぱなしでほっといて、みんな、あんまり異言について詳しく聞いてないんだな」ということを思いました。「ああ、それは勿体無い」と思いました。あんまりそれを振りかざしてどうのこうのという意味じゃないんですけど、主が与えられた御霊の働きのそれも 1 つですから、しっかり受け止めた方がいいです。

私自身若い時、二十代の頃からその経験の中で来て、いろんな霊的な指導者達に会ってきました。そんな中で、ホントに教えて貰ったし、語って貰いました。本当に手とり足とりっていう感じの時もあったしね。だけど、そういう方々もね、もうみんな今いないんですよ。私もね、それなりの年になってきて、・・・だから今思うんです。聞く耳のある人がいればですけど、詳しいところを今度は私が話す番なのかなと。僭越ながら。多くの偉大な先輩たちの足元にも及ばないですけど、でも、話せる時があったらと思って、それで、このセミナーでちょくちょく話しています。特に前回と今回は皆さん、ちょっと、異言セミナーになっていますから。ですから、どうぞ心して聞いて、収めて下さい。1:03:08.25

では皆さん、I コリント人への手紙のところですが、今、2 章 3 章のところを見ましたけれど、もう少し先にいきましょう。I コリント人への手紙の 12 章。

1 節[・・・御霊の賜物についてですが、私は、あなた方にぜひ次のことを知っていただきたいのです。]と言ってるんです。これ、ここに御霊の賜物がずっと紹介されているんですが、イエス様が昇天されて、一番最初に現れた聖霊の賜物は何だと思いますか？あのペンテコステの日に。使徒の働き 2 章のところ、聖霊が下った。その時に現れたのは？異言ですよ。そうですね。異言です。1:05:31.25

使徒の働き 2 章 1～4 節

1 節[五旬節の日になって、みなが一つのところに集まっていた。] 2 節[すると、突然、天から、激しい風が吹いてくるような響きが起こり、彼らのいた家全体に響き渡った。] 3 節[また、炎のような分かれた舌が現れて、ひとりひとりの上にとどまった。] 4 節[すると、みなが聖霊に満たされ、御霊が話させてくださるとおりに、他国の言葉で話しだした。]これにみんな驚いて、で、この賜物の恵に導かれて、ペテロが立ち上がって、預言者ヨエルの言葉を語った。 17 節[・・・わたしの霊をすべての人に注ぐ。]・・・そして異言を語った。18 節[・・・すると彼らは預言をする。・・・] この預言者ヨエルのことばが、ペテロの内側にムクムクっと、聖霊によって湧き上がって、ペテロは、預言者ヨエルの言葉によって預言をしたということがいえます。それから、ペテロのメッセージがここから続くわけですよ。1:07:30.70

そして、**I コリント 14 章**を見て下さい。13 章の愛の章が終わって、またパウロは、御霊の賜物について語り始めます。愛の章、13 章がなんであるのかというのは、パート 1 のところで話しました。また触れてもいいけど、ちょっと後にしますね。

14 章の 1 節。[愛を追い求めなさい。また、御霊の賜物、特に預言することを熱心に求めなさい。]どうやら預言を強調しているようです。だけど、このパウロの話の中で、異言ということに注目してみましょう。

2 節[異言を話すものは、人に話すのではなく、神に話すのです。というのは、だれも聞いていないのに自分の霊で奥義を話すからです。]・・・異言は、まず、人に話すのではない。**神に話しているんだよ**。なんの話？ **自分の霊で奥義を話す**からですと書いてある。ここ、原文では、自分のという言葉はありません。でも、補足的につけているんですが、直訳では、『霊で』奥義を話すからです。』と書いてあります。1:09.53933

神様がいてですよ、我々の内側にきた聖霊が、我々の言葉ではなくて、わからない言葉で、神様に話していますよ。それは、さっき言いましたように、聖霊は父の奥義を、御子イエスの奥義を深く知って、話しているんです。

ところが私たちが、自分自身のことを深く分かっているつもりでいるけれど、いやいや、我々の内にいる御霊は神の霊も、神の奥義も、我々のこともよく知っています。我々をわかまえるのは、我々の霊です。さっき書いてありました。それは、我々の意識では全部、自分でも何が何だか自分のこともわからない。けれども、神の霊は、我々の側に来て、我々の内側を全部知って、そして神の奥義も知って、語っているんです。だから、3 節も読みましょう。

3 節[ところが預言をするものは、徳を高め、勧めをなし、慰めを与えるために、人に向かって話します。]

4 節[異言を話す者は、自分の徳を高めますが、預言をする者は教会の徳を高めます。]・・・だから、教会の得を高めればいいから、異言はいらないんですよ。ということですか？違います。[異言を話すものは、自分の徳を高める。]ということが前提であり、まず初めであり、高められた人が、今度、預言を語り、教会の徳を高めるんだと言っています。1:13:11.59

このね、『徳を高める』という、なんかものすごく高尚な言葉が書いてあるけど、これは、『建て上げる』という意味で使われています。宮を建て上げるとか、神殿を立て上げるとか、あるいはあの『家を建てる』とかに使われている言葉なんです。

ですから、自分自身、あなた自身も立て上げていきます。どういう風に？ 神の御心に従って、あなたを立て上げていく。成長させていく。築き上げていくものなんですということですよ。

だったら、異言を話して自分が建て上げられていく。あなたが建て上げられていくんなら、どうして自分にわからない言葉で話すのですか？自分の国の言葉で話してくれたら、私たちは立て上げられるじゃないですか？そうじゃないの？そうだね。だけど、異言は自分でわからない言葉で話すから、自分はそれとは区別されて、いわゆる私の意識は、自分の意識はそっちのけで、異言だけが語られるという、奇妙な方が起こるということです。1:15:17.95

5節[私はあなたがたがみな異言を話すことを望んでいますが、それよりも、あなたがたが預言をすることを望みます。もし異言を話す者がその解き明かしをして教会の徳を高めるのでないなら、異言を語る者よりも預言する者の方が勝っています。]

6節[ですから、兄弟たち。私があなたがたの所へ行って異言を話すとしても、黙示や知識や預言や教えなどによって話さないなら、あなたがたに何の益となるでしょう。]1:16:15.02

これね、どれだけコリントの教会のクリスチャンたちが、異言を語っていたかというのが分かるよね。もう、うわーとみんなで一緒に大声で異言を語って、誰も解き明かさない。ある人は自分で語って、もうその中で陶醉していて、うわーっとなるんでしょうけど、・・・だからパウロは、その無秩序なものに見えるその姿を、ここで指導してるわけです。預言だけあったらいいでしょうという意味ではないんです。

異言は、みんなが聞いてわからないから、異言で祈る、語るんだったら、一人で語りなさい。どうぞ思いっきり語りなさいと言ってるわけです。だけど、あなたに異言が与えられて語って、あなたが建て上げられていくというのは、あなたの自己満足の為ではないよ。みんなが立て上げられていくためだよ。ということなんです。1:18:01.03

それは何でかということ、さっき言いましたように、聖霊は、我々の内に神の奥義をかもし出してくれるです。でもね、みなさん。異言というのは、・・・異言を語る人は、どんな異言が出ますか？と、そう言われて順番に異言を語ってもらうわけにもいきませんけどね。昔、あったんですよ。集会に何十人もいるのに、そこの指導者が、「はいそっちの端から、順番に異言を語って下さい」というんですよ。そんなのがあったんですよ。だから、みんな一人一人が並んで、その人からアドバイス受けることができるというのがね。今はないですよ。そんな事をそこまでやるかって思いますけど。1:19:23.35

でもね、非常に単音の単調な言葉が連続して出るという異言があります。あるいは、その異言の中で、1つ 2つ 3つ、4つと何か他の言葉が交る場合があります。あるいは、もっというなら、異言は出ているんだけど、ものすごくうめき苦しい。もう腹から絞り出しているような苦しそうな異言もありました。聖霊は内にいて語ろうとしているけれど、私たちの心・思いが、語る前に語りたくないのに語っているという場合もある。

それともっと苦しいのは、自分の心にある肉・魂のざわつき、歪み、うめきというものが心の中にいっぱいある場合、自分の思いとしては、御霊によって自由になりたいと思っているけれども、その自由になるまだ御言葉を知らない。自分の心の使い方もわからないという場合は、ものすごく聞いて苦しい異言というのもあります。そういう場合は、ある程度祈って、もう私も、「はいちょっとストップ、やめましょうね」と言って、霊的カウンセリングを行なわないといけない。あなたの魂の歪み、苦しみ、もがき、そういったものが、ガッチリあって、もう岩のようになった状態です。でも御霊は、それを包んでくださるんだけど、その人がそれを掴んで離さない場合、非常に苦しい異言になっている場合があります。その場合は個人的に、「ねえ、私の異言ってこういうんだけど、一緒に祈ってもらえる？」と言って兄弟姉妹の助けを得るというのは有益です。1:22:42.06

苦しそうではなくても、片言の場合。それって、まだ自分の言葉から出る異言が、いわゆる幼さがある。もっと語れるようになるから、それは語ったらいいんだけど、自分の魂に神の御言葉、解き明かし、メッセージを本当に『我と汝』の神様の語りかけをたくさん自分の内に食べる必要がある。そしてあなたの魂が 充分憩う、ほっとする。主の御霊が共にいて、平安と安らぎの中に落ち着くまでそういうふうな礼拝の中に、自分の主を崇めることの中に、留まる必要がある。そして、また異言を出す。そしてまた留まり憩う。そしてまた異言を出す。そういう立たずまいの中にもっと解放がやってきます。御霊は、あなたと本当に、近くであって、あなたの心を解きたい、解放したい。そのこだわりを、執着を解きたいのです。1:24:49.59

また、ある人は、いわゆる普通に日本語を喋っているかのごとく、色んな言葉が混じって、流暢にどんどん出てきます。出したらいいんです。でもそれはおもに、一人で祈る時。そしてそういう時を持つと良い。

いいですか ? もう一度大事なことを言います。

我々の内に来てくださった御霊は、我々の内であなたを、あなたの心を誘って、あなたと腕組みして、あるいはあなたと解け合って、あなたと 一つとなって、聖霊は、主イエスと父なる神と、向き合おうとしてくださるんです。

あなたが父なる神と向き合うことがどうも苦手で、なんかちょっとそらぞらしくて、どうしても遠くの『彼』になってしまう。そんな時に、あなたの内なる聖霊は、あなたを誘って一緒に腕を取って溶け合って、聖霊とあなたは一つとなって、父なる神に向き合おうとしてくださるんです。その三位一体の父と子と御霊の深い関係性の中に、あなたを誘い、もう誘うどころか一緒になって、腕組みして『さあ、行きましょうよ。』と言ってくださっているのです。それが『異言』なんです。1:27:02.35

だけど、異言を語っていることの内容は、まだわからない。なぜですか?もし異言を語っているのは日本語で、語られたら、それは、「あなたの主は、あなたですよ」ということがはじかれてしまうじゃないですか。あくまでも、異言で語っている内容をあなたが悟って、あなた自身がそこで建て上げられていくんです。あなたの主人であるあなたが建て上げられていくんです。

そして、その奥義と知識とそれらが、もう聖霊がどうのこうのじゃないんです。「私の言葉だ」というようになってからです。そのためになんですよ。1:27:51.42

「あなたの主は、あなたですよ」ということを、あくまでも御霊は助けてくれるんです。で、神に祈っているけれど、その内容をペラペラ、ペラペラまだ幼いあなたに語って、頭でっかちになって全部わかってしまうんじゃないかと、あなたの霊の深みからの知識がしっかり建て上げられていくように。あなたのものになっていく、それを助けています。1:28:30.76

それを助けているんですが、一つの危険は、聖霊が何かを見せてくれる。聖霊が夢を与えてくれる。「聖霊がこれを見せてくれた。」「聖霊が聖霊が、・・・」「聖霊様が聖霊様が・・・」と言っていると、・・・以前にも言いましたが、聖霊というのは、『聖い霊』というだけの名詞ですよ。固有名詞ではありません。それがあなたの魂にあまりに嵩じると、あなたが自分の魂の、魂的な、あるいは肉的なものがそこに挟まって、何かこう傲慢さや何かの焦りや妬みや何かがあるところに入ってくると、聖霊、聖霊と言いながら、そこにそれに似たというか、他の霊が侵入する可能性がありますからね。

あくまでも自分の内が、霊と魂が建て上げられていく神の奥義の中で、自分が前と違った主の心と共に歩める自分に建て上げられていくということが第一なんです。

この続きは休憩の後にしましょう。休憩します。

後半

はい、後半をはじめます。第1コリントの14章の6節を見てもらえますか。

Iコリント 14:6[ですから、兄弟たち。私がある方のところへ行って、異言を話すとしても、黙示や知識や預言や教えなどによって話さないなら、あなたがたに何の益になるでしょう]と書いてあります。

ここに「黙示、知識、預言、教え」とありますけれど、・・・黙示というのは、いわゆる理科・科学的なそういうものを表現して、科学的・物理的にどうだ、こうだと言って環境を説明したり、神様の預言を説明したりするのではなくて、神様の心を一つの物語として、抽象的な概念として表現していく。それを『黙示』と言います。黙示録というのがそうですね。何か現実離れした表現や現象がいっぱい出てくる。その黙示という絵を通して、その人々に語りかける場合がある。

【知識】となると、本当に今、私たちが生活する感覚や学んでいる知識、そういうものを指す言葉ですよ。そして、【預言】というのは、この字の通り神様から預かった言葉。たとえば、「主は今このようにこの集会で語っておられますよ」ということを預言をするという言い方。それから、【教え】というのは、その預言とか、知識や黙示ではなく、具体的に私たちの生活の中で、私たちがどのように歩むか。そしてそのために、神の言葉をどう私たちが解き明かすのか、解釈するのかという具体的な悟りの言葉があるわけ。]3:34.97

そして、ここでパウロが、【異言を話すとしても】というのは、「私もあなた方も異言を話しています」ということを前提にして、その異言によって、あなたがたが、私が、建て上げられて、それが互いの出会いの中で、『あなた

と私』の中で、黙示となり、黙示の表現となり、知識となり、預言となり、教えなどになっていきます。異言で話す
 ということが、ひとりひとりを建て上げられてゆくので、その建て上げられた各々が、その賜物に従って、黙示を語
 り合ったり、知識を語り合ったり、預言を語り合ったり、そして細かな教えなどによって、もっと我々が豊かになっ
 ていくのだと言っています。4:58.56

だから、この我々の内なる御霊の語らせてくれる異言という言葉は、そういう自分自身を建て上げる基礎的作業に
 なるんだよと。5:22.65

我々は本当に御霊と『我と汝』なんです。『我と汝』ということさえも忘れるぐらいの無意識で。「忘れちゃ
うほどに、もう一つよ」と。「当然じゃん。」と言う気持ち。そこに神のものとしてのもの凄い落ち着きと自信が
出てくるんです。6:01.49

だからといって、偉ぶって傲慢になって、そうなっていくという風に発想されるんだったら、てんではじめから分
 かっていません。もっと謙虚になっていきますから。もっと、御霊と『我と汝』のように周りにいる人と、『私
 とあなた』という関係が深くなっていくのです。そして、私の内の御霊だけでなく、隣にいる、周りにい
る『あなた』の内にいる御霊さえも、一緒になっていくんです。6:58.02

それから、さっきいろんな異言が出るという話をしましたが、もうちょっとそこを言わせてもらえればと思いま
 す。

あのね、異言で祈った時、それを解き明かす・・・「これって何を祈ってるのかな？何を語ってるのかな？」と心
 と思いをそこに傾ける。「解き明しのために祈りなさい。」とパウロは言いました。

なので「分からないからいいのよ。別に。異言祈りながら、私が何をしてても」という気持ちで祈るのは、・・・
 まあ、そうなんですけど・・・でも、聖霊は、この語っている奥義が、ご本人に本当にわかってほしい。それを理解
 して欲しい。その人のものになって欲しいわけです。単に頭の知識だけでなくね。8:12.99

ですから、解き明かし、「これは何を祈ってるのかな？」と、ウキウキしながら楽しみながら、語れば良い。そう
 するとね、これは私の先輩達も言っていて、私も本当そうだなと思うのは、これが、「今、本当に父なる神を喜んでい
 る。父なる神に親しく語りかけている。ほんとに、親しくです。距離感なく、語ってるなー」というのが自分の内に
 染み渡ってくるようになるんです。何をどう語っているかまではまだ分からない。でも、「うん、そうだな」と、
その語る霊長に自分が納得できる自分がいる。9:24.99

そして褒め称えている。その主への賛美。その愛を表現している。そうですよ。語っても、語っても、その言葉が尽
 きないんです。異言というのは。

うん。もう 5 分 10 分たったら、もういいだろうじゃないんですよ。語ろうとすれば、もういつまでも、ね。「御霊は、いったいどこまで、父なる神が好きなの？」というくらい。ただそれはちょっと失礼ですけど、「私もそうよ」と、思わされるくらい、誘いかけを感じる。10:11.02

そして、そういうふうな語りと同時にね、もう一つ、パッと、語り方が変わる場合がある。それは、今まで、父に祈るように親しく語っていたその父への向きが、今度は、周りに誰もいないのよ。周りに誰もいないんだけど、私の周りにいる誰かに語りかけてるような異言になる。・・・「何これ？」と。で、これ、私、言葉わかんないんだけど、一人一人に何かこう説明しようとしたり、語りかけていたり、所謂何かをこう教えて、納得させようとしたり、・・・という風に、父に向かってた祈りが、今度は周りの誰かに例えば 1 人でのいるのに、「周りに沢山これ、人がいるんか？これって。」と、錯覚して思ってしまうように語るんです。「なんですか？これは？」とつくづく思っていた。そしたらね、それを昔、そういう指導ができるという方にちょっと聞いたら、「ああ、それいいじゃない。それ、あなたのために貯めているんだよ」というわけ。「溜めてる？私の中に何を溜めているんですか？」「主が、御霊が、説明したい内容を溜めてる。」と。12:16.41

それから、私ずっと考えてまたそれを実践していくと、分かるようになってきたんです。つまり、それが何を説明しているかは分からないよ。相変わらず。けど、それが集会でみんなで異言を語るんじゃないなくて、誰かが祈りの中で、異言がダーっと出るわけよ。そしたら別の誰かが、その今の異言の内容を解き明かすわけ。所謂通訳みたいにね。それって、父への祈りじゃなくて、その人の霊から、他の兄弟姉妹に、そこにいる人々に対するメッセージなんです。それが異言のメッセージと言われる。13:24.55

だからそれをこの **Ⅰコリントの 14 章**のところでも書いているよね。誰かが異言が出たら、また、他の人が異言が出たら他の人は黙りなさい。そして、解き明がしのできる者が、それを解き明かして、みんなのメッセージとしなさいという。そういうグループ、集まりでやったことありますか？それが出来るんです。そして黙示や知識や預言や教えなどは始まっていくんです。14:09.26

だから、異言のメッセージが、あなたの内からも出てくるでしょう。そうするうちに、私がわかってきたことがあるんです。というのは、誰誰さんと話してる時、あるいは集会で・・・集会でと言ったって、皆さんはそういう経験があると思いますが、集まって集会で、誰かが聖書のお話をしますと、所謂メッセンジャーが、聖書研究会で今日は聖書の学びをしましょうという時メインで語る人がいます。そういう働きをどう思いますか？

みなさんのところでも毎週日曜日話している牧師さん、いるよね。毎週毎週ね、メッセージをどこで考えるの？って思っちゃうよね。私が思うに、・・・いや、私もそうやっていた頃がありました。でもね、そんなのね、毎週毎週あるいは毎月、次はこれを話すぞという内容を、いちいちノートに書き留めて準備してやるというのは、・・・そんなのやってられません。そうじゃあないですか？そりゃあ、ある程度の準備はもちろん必要でしょうけどもね。16:11.60

その場に來た皆さんと、私とあなたと顔を見合わせ、その霊を共にして佇んでいる。その中に主が共におられるんです。そして我々のうちの御霊も、それが互いに分かっている、我々の間で交わることがあるとすれば、学び合うこ

とがあるとするれば、それも御霊は分かってるわけよ。そうするとね、全然準備してない時というか、できない場合だってあるわけ。そうでしょ。突然出会って突然集まってという時が。でも御霊がというよりも、その人と聖霊のことを意識だりしないでも、その方々と面と向かって相対している時に、自分の中から、わーっと出てくるんです。その時に。

あなたがたは何を言おうかと心配しないがよいと。御霊が、言うべきことをそのときに話させてくれるんだという御言葉(ルカ 12:11,12)があるけど、その通りなんです。我々の内にもにいる御霊がそれを語らしてくれるんだと。
17:43.66

その語る言葉というのがね、一人で祈っている時に異言のメッセージが、ダラダラ、ダラダラ出るんです。「これ、誰も聞いてないよ」と言いたい、本当に。でも、その語っている、語った解き放ったメッセージは、どっか私の意識してないところに溜まっているみたい。そして、必要がある人と出会った時に、「あ、そ？」と語り合いながら湧いて来るんです。なんの準備もしてない。その日、その時、出会った永遠の今に、聖霊は配慮してくださる。働いて下さっているんです。 18:47.28

だからそれも、私の耳で、誰かが囁いていて、イヤホンでもしていて、誰かが別の部屋で喋っててくれているのかというと、そうじゃないですよ。相変わらず私があなたに話しかけていることは、その永遠の今であるその時に、私が心の中に湧き上がって、考えて、考えて、言い方考えて話している言葉なんです。 19:23.75

喋っているのは、所謂、聖霊じゃないんです。私なんです。でもそれは、その人間だけでなく、その人の根底に内住する聖霊の技なんです。
19:50.02

それは別に、そういう話をする人、メッセージをするという導かれている人だけじゃなくて、私たちが日常的に出会う人々、家族、友人、そして職場で、出会う人々、出会いの中にあるみんな、それが生きてきます。あたの中から分き上がって、それが生きてきます。そうなんですよ。 20:22.14

だからクリスチャンの交わり、教会だけがその場ではありません。クリスチャンであろうと、そうでない家族の中でも。あなたの内の御霊は、あなたの家族を愛して解き放っているでしょう。私たちが仕事に行く時に、職場の人、お客さん、取引先みんな、くだらない金儲けのことしか考えてないような輪の中でも、私の内なる御霊は、その一人、一人に表現したい事があるんです。だから、家で家事をしていても、雑用をしていても、職場で仕事をしている時でも、同じように落ち着いて、自信を持って、楽しめるんです。 21:34.63

「あ、この人とどんな関係性をつくろうかな」って。私、ほんとうは12月は仕事が忙しいのよ。でも体は疲れていても、行った先で一人一人、その方々との交わりが楽しいんです。別に神様のこと、言えないし、信仰的なことでどうのこうのと言えないけれどね、でも、そこでその人たちの内なるものが湧いているんだったら、こちらとの出会

5C⑫キングダムセミナー20251213

いと交わりで何か感じる、満たされるんです。そうなんですよ。そうやって、クリスチャンとしての交わりを持ったお客さんが何人かいます。22:46.70

あのね、ユダヤの寓話集って知っていますか？寓話っていうのは、いわゆるジョーク集。ジョークっていうのは、アハハって笑えば終わりですけど、その寓話集というのは、昔のラビたちがちょこちょこっと経験した1コマを短い文章にして、そこに真理を入れ込んでいるという、本当にユダヤ人らしい。モーセやアブラハムやヤコブやイサクという、あの人たちの物語を借りながら、自分たちの日常生活の寓話にしちゃうんです。そして「これ真理だよ」と言って、子供にもどんな人にも、聞いたら、聞いた人のレベルに合わせて何か感じれるような。そんな話っていうのがいっぱいあって、実に面白いんです。でね、日本でもそんな物語や格言というのがあると思いますけど、こういうのがあるんですよ。1つ今思い出して紹介したいと思います。24:19.29

ある商売をしている主人が旅に出かけると言う決心をした。それについて、自分の店を、商売を誰かに任せなければいけないと言って、自分のところにしばらく一緒に雇って働いている僕に声をかけた。

「私は旅に出るから、あなたがこの店で商売してくれ。私の店をできれば今より繁栄させてくれると嬉しいけどね」と言った。そうすると、その僕は、「ご主人様、私はまだ慣れておりませんし、私はまだ自信がありません。」と言った。「そうか、そうしたらいいよ。しばらくの間、私と一緒にこの店の中に立っていよう。」と言って、主人のやり方を見せたと。そして、もういいかなと思って、自分の旅の友として、連れていくもう1人の僕というのがいて、その僕に「さあ、そろそろ旅に出ようか」と言って、旅立つ前に、店の脇に立って、店番をしている僕の様子を見ていた。

そうすると、あるお客さんが来て、「これこれのものをこの値段で買いたいんだが」という交渉をした。すると、その僕が「私のご主人様は、この値段では、これを決して売りません。」と言った。そうすると、ちょっと脇で離れてみていた主人は、「そうだな、もう一年、ここに留まろう」と言った。そして、主人がいてくれるから、その任せられた雇い人は、ホッとした。

また一年過ぎて、一年後に「さあ、そろそろ行こうか」と言って、二人はまた、あの店の脇のちょっと離れたところで、任せた僕を見ていた。するとお客さんが来て、僕はそこでいろいろ交渉していた。そうすると、「これでどうだ」という交渉に、その僕は、今度はこう答えた。「主人も私もこの値段ではお売りしません。」と言った。そうすると、そばで見ていた主人は、旅の友の僕に向かって、「もう一年いよう」と言って、もう一年一緒に暮らしたというんです。

で、そしてね、もう一年が過ぎました。「さあ、そろそろ行こうか」と言って、旅の友の僕を連れ立って、また店のちょっと離れた角に立って見ていた。すると、今度は他のお客さんが来て交渉し始めた。そしたら、「この値段でどうだ。私が買いたいんだ」と言ったら、僕は言ったんです。「その値段では、私は売りません。」と。それを見ていた主人は、旅の友の僕に向かって、「それでは行こうか」と言って、旅に出たと。

29:09.20

そういう話なんです、分かりますよね。主人はあくまでも、その人の中にいて、その人が、「私」という主体性と主人公を持って、商売をして欲しかった。そうでなかったら、この店は繁栄しないということですよ。29:43:32

そうなんです。主は、いつまでもいつまでも、私達を支配し、従わせるだけのパートナーとは思っていません。私達も、主の名で、『生きる』というのはそういうことですよ。もともと。

30:18.66

主人の名札をピッと剥がして、名札だけをここにピット付けてねということじゃないですよ。腹の底から「私は、その値段では売れません。」と言ってくれた僕に、主人はホッとしたと思いますよ。「やったー！」と。いいねマーク👍ですよ。ほんとに。そうなるために聖霊は、わざわざ我々の中に来て、我々を、心を掻き立たせ、考えさせて、思慮をさせて、深めて、我々を建て上げてくれるんです。これって、ほんと、なんと有り難いことよ。31:25.49

だから、皆さんがどういう感じで歩いてこられたかは、本当に一人一人、まだお話ししていない人も多いんで知りませんが、でも、聖霊感をシャキッとしましょう。その意味でね。

31:48.76

昔の「あ、父と子と御霊なんだな。」「天のお父様。イエス様。聖霊様。ハレヤ！」気持ちも内容ももう、そのとおりですよ。いい言葉ですよ。

けど、本当に 私達は、主と「私とあなた」という近々しい中で歩むのであれば、主がそこまで腹を決めて、覚悟して、御霊を置いておられることを、もうしっかり受け止めようじゃないですか。32:57.76

さあ、これまでのところで、今日話した異言セミナーの内容でね、何か言いたいことや質問があればどうぞしてください。大丈夫ですか？

参加者：先生、私、異言というのがまだよく分からないんですけど。祈っていて、どういうふうになることが異言なのか、・・・私はうめいているみたいなのところがあるんですけど、それは異言ではないんでしょうか。

先生： そのうめいている言葉を、口をね、もっと開いてごらん下さい。そして、何よりも「主よ。私に聖霊の満ちしを与えてください。イエス様の中に私はいます。イエス様と共にいます。イエス様と共に蘇った自分を感謝します。そして、聖霊を私の中で生き生きと与えてください。」と心から願って、その願いを自分で決心して下さい。でも、こう願いながら、（聞かれるかな？だめかな？やっぱり。いや聞かれたらいいな）というそんな気持ちで願っているという場合があるでしょう。それ、だめなんです。『願う』というのは、しっかり自分の中で決心して「願います」と。その応答を主は待っておられます。だから、祈って、「私はまだ与えられません。まだ聞かれません。」という人は、自分の中の決心がまだないんです。自分の中でしっかり願いの決心をする人は、「今願っています。」という現在進行形でずっと留まるんです。誰と出会っても、「まだ私、与えられてないのよ」とは言いません。

「私は願っています。」「与えられます。」と言い続けます。

参加者： 自分の思いで祈ってるから違うといわれているんでしょうか？

先生： いやいや、違う、違う。自分の思いで、決心で祈らないとダメなんです。そうです。じゃあ自分の思いは一体どこにあるんですか？自分の思いがわかんないじゃないですか？

参加者： 自分の思いはこういうふうになりたいという思いと、神様がこっちはすよというのがあったら、自分の中ですごく葛藤するんです。

先生： ううん。それは逆。自分の思いや感覚に根拠を置いているから葛藤するんです。私たちの願いも思いも、神様がどう言っているのか。まず、神の言葉が根拠なの。私たちの思いや感覚、ふらつくそんな自分の中の魂的なもやもやには根拠がないの。それを根拠にしたら、いつまでも。祈れません。決心できません。『神様がそう言われるんだったら、私はそれを受け取ります。神様がそう言っておられるから、私は御霊を愛します。感謝します。この御霊を満たしてください。霊の言葉を溢れさせてください。私の口を委ねます。』と、こう決心して祈ることです。それに対してなんだかんだ、言い訳だの、ぐずぐず言わない。

参加者： じゃあ、異言って、自分では何を言っているか分からないうちですね。

先生： あの一、人が語っている異言を聞いたことないですか？

参加者： はい、あります。でも何を言っているか分からないんですよ。

先生： そうです。分からないんですよ。その異言というものを本当に上手に使っている人達の中にいればいいんですけどね。一番自分が馴染むのはね、そうしたらね。ドギマギしてしまう。でも、ちゃんと基本的に色々教えられながら、こうですよ。と、いうふうに、説明されながら、実践していくんです。そういう中にいてください。はい今日は、この時間にこれ以上ちょっといろいろ言えないけれど、また個人的に話しましょう。39:44.09

参加者： この祈り方でいいんですよね。ふらふらしてても・・・

先生： いやー、だから、ふらふらしている自分があったとしてもね、祈りのその心を表現するのはそうだけど、願いがはっきり・・・願い続けなさい。叩き続けなさい。尋ね続けなさいって言われているでしょ。そうすれば、与えられるんだと言われるでしょ。ね、願い続ける途中で、「いやどうも私、わからなくて、ああだこうだ」と言ったら

参加者： もうそこで、分からなくなっちゃう。

先生： はいだから、まず、神様の約束です。掴むのは。自分の心に基本を置くんじゃない。

はい、ちょっとそこまでにしましょうね。40:55.87

はい、では最後にキングダムセミナーの本の 63 ページ開いてください。ちょっと読んでいきましょう。41:15.23

集合人格という 4 つの特徴を前に説明しました。我々は 一人の御霊の存在をみんな共有しているのです。みんな持っているのです。私たちの聖霊は、一人のお方なんです。異言の祈りというそれだけのことが、どれだけ聖霊の性質、神様の御心、働きに役立っているか。だから、集合人格ということの豊かさの中に我々は前進していきましょう。個人個人バラバラで、みんな勝手に・・・そりゃそうなんです。住む場所も、やっていることも違うけれど、主イエスを見て、聖霊によって、私たちは神の国を、築き上げていくのです。

63 ページの一番下のところに、そこには【もう 一人の私がいる】というところをちょっと読んでみます。42:47.33

以上、集合人格の特徴を思い巡らしました。しかし、お解かりのことと思いますが、教室で勉強する事柄ではありません。日々主と歩みつつ、霊的黙想の中で開かれてくるものです。(これは霊の祈りの中で)あなたの内で集合人格が啓示になり始めると、相互内在の真理が、当然のこととなってきます。

さらに思い巡らせてみましょう。私の中に主のいのちがあり、主の中に私のいのちがある。もし、あまりにも主と自分と同心円的に見ることが、突飛なことであるならば、同じ実態をもう少し私たちの生活観に近づけて、黙想しやすくしてみましょう。私たちがこれを黙想している以上に、主ご自身が黙想しておられるのですから。次のように言うことができます。

主から見れば、あなたはどのように見えると思いますか？

これが大切な視点です。イエスから見れば、あなたは『もう一人の私（イエス）』なのです。天の父から見れば、イエスは『もう一人の私（父）』でしたし、イエスから見れば、聖霊は『もう一人の私（イエス）』でした。そして今イエスがあなたを見る時、そこに『もう一人の私（イエス）』がいるとおっしゃるのです。44:25.18

この現実の中で、次に私たちが互いに会おうとどうなるのでしょうか。あなたは、自分の教会の人々の中で、周りの人々と同じでなければならないという衝動を持たなくなるでしょう。違っている召しと賜物、務めの方が楽しいと思うことでしょう。自分と違う資質と性格を持っている兄弟を喜ぶことでしょう。なぜなら、自分がもし 二人いたとしたならば、もう 一人の自分を全く同じ召しと賜物と資質と性格をしていてほしいでしょうか。いいえ、そうではありません。むしろ自分と違ったものを持って、自分にできないことをやってほしいと思うのです。もう 一人の私がいながら、二人とも同じことをする必要はないのです。アーメン！

そして、こういう風に、互いを喜んでいくことができます。45:26.36

さあ、あなたの伴侶、そして家族、教会のメンバーを一人一人ゆっくりこの視点で見つめてください。そこにもう一人のあなたがいるはずですよ。初めから大勢の人、もう 一人の自分として確認する必要はないでしょう。あせらなくても、誰も奪ってはいきません。神が確保してくださっていますから。45:53.07

・・・あの、ここね、「あなたの伴侶、家族やあるいは近所のあの人の人ってね、クリスチャンではありませんよ。そんな人ともですか」という気持ちが、湧き起こってくる人があるのかもしれない。いいえ、そうではありません。あなたのように信仰を明らかに持っていないという伴侶であっても、家族であっても、近所の人でも、このキリストの神の国の共同体、集合人格に向かって入ってくる途上の人なのです。それでも。そこで、私たちがその人との関係をぶち切ってはいけません。私たちがその人の関係を投げかけなければ、誰がその人に関係を投げかけてくれるんですか？46:54.89

でも、もし全く同じ召しと賜物、資質と性格を持ったもう 一人の私が欲しい。そして一緒にやりたいと願っているのなら、その人は「イエスの中にいる自分」を思い、主のただ中で、もっともっと憩うことが必要でしょう。その人は、自分の寂しさ、孤独感、自信の無さをカバーするもう 一人の自分を求めているからです。このようなもう 一

人の私を周りの人に要求する時、エクレシアのキリストのソーマ(からだ)としての姿は破壊されてしまうのです。(立て上げられていかないのです。これが主流になったら、破壊されます。自分の寂しさ、孤独感、自信のなさ、癒され、満たされるべきです。

その癒しと満たしは、イエスの中からやってくるものなのです。あなたはイエスから見て、もう一人の私なのです。あなたは寂しくなく、孤独でもなく、自身に溢れています。あなたはあなたで 十分なのです。イエスは願っておられます。『あなたは、あなたであって欲しい』と。イエスの中にいる自分が、自分で認められるようになるともう一人の私が見えてくるのです。48:23.59

【これは観念ではなく、神の一性質なのです】

さて、今回は、主との相互内在を生み出した『霊的原理』を黙想してきました。聖書の根底を形成している『集合人格』の概念は、文学的な人格化でもなければ、概念でもありません。否定することのできない『神の性質』なのです。すでに今の時代は、集合人格をヘブル的思考方だとか、ギリシャ的思考方だとか語っている時代ではありません。ヘブル人もギリシャ人もなく、男も女もない、神の性質の時代なのです。この深みからの啓示なくしては、これからの時代は受け止められないでしょう。49:20.80

【友人たちの成長は私の成長です】

集合人格に根ざし、もう一人の私と出会い始めると、私たちの生き方がどんなに楽になることでしょうか。例えば、私には素晴らしい油注ぎを持った使徒や預言者たちがいます。また、様々な資質と賜物をもった友人たちもいます。私は彼らに対して羨ましく思ったり、妬みの心を持つこともできます。でも、どうしてそんな必要があるのでしょうか。彼らはもう一人の私なのですから、彼らの油注ぎは、私にも通じているのです。友人たちのいろんな賜物は、私のものではありませんか。

使徒たちの前進は、私の前進であり、友人たちの成長は私の成長です。私が何かを打ち破ったなら、それは私の信仰が素晴らしいからなのでしょう。いいえ、もしかすると、私だけでなく、どこかのもう一人の私が先に打ち破っていてくれたのかもしれないのです。また、私が信仰を使って、何かを推し進めることは、使徒や預言者達、そして大勢のもう一人の私に、確かな奉仕になっていることを確信するのです。51:09.07

つらいことに現在も、なんと多くの有能な主の働き人たち、奉仕者たちが、適意・争い、そねみ・憤り・党派心・分裂・分破・妬み・競争心・肉の誇りなどのサタンの放つ攻撃にさらされ、孤軍奮闘していることでしょうか。

しかし、そんな教会時代の終焉が近づいていることを宣言します。教会時代を通じて多くの聖徒たちの叫びが、今、御国の訪れの時代を迎えさせました。この時代に先に飢え渴いた人々は、神が解き放っておられる御国の啓示に触れ始めています。やがては古い時代から出て、新しい時代の住民として、キリストのからだに結び合わされていくことでしょう。さあ、これらのことをじっくり巡らせながら、次回から神の国の学びと黙想に入って行きましょう。

5C⑫キングダムセミナー20251213

はい、ということで、パート1、パート2を最後にちょっと深めて話しました。これまでこういう話を、どのクールでもやってきませんでしたけど、今回は深めてみました。52:39.53

本当に集合人格・・・実は50人近くの方がここに入っていますけれど、参加している方々の中から、色んな感想やコメントを私のところに寄せてもらっています。本当に有り難いし、私は励まされます。それと同じように、私からも皆さんを祝福し、この御国の歩みの中に解放したい。

私たちの御言葉からきた、御霊と一緒に造り上げてもらった私たちの望みと決心を、私たちは大事にして、その決心で宣言しましょう。そこにいきましよう。

「私の主人はその値段では売れません。」じゃなくて、「私と主人は、」でもなく、「私はこう決心し、この時代をこう造ります」と、そうやって進んでいこうじゃありませんか。アーメン！

これで今日のところは終わりたいと思います。では、次回1月からはパート3の方に入りますので、一緒に進んでいきましょう。はい、有難うございました。